

航空交通気象センター 首都圏班



東京国際空港内に設置されている首都圏班は、主に首都圏周辺の空港・空域について、より詳細な気象の監視・予測を行っています。

平成15(2003)年10月 総務部航空気象管理官付 航空交通気象センター準備室 として発足

平成17(2005)年 4月 予報部予報課に移管、現在地(福岡市)に移転

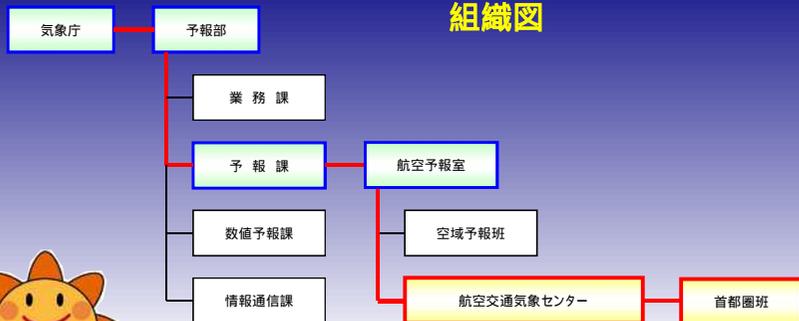
平成17(2005)年 7月 予報部予報課航空予報室の発足に伴い、予報部予報課航空予報室に移管

平成17(2005)年10月 予報部予報課航空予報室 航空交通気象センターとして発足  
気象解説など一部業務を開始

平成18(2006)年 2月 航空交通管理センターの本格運用開始に合わせ、全面的に業務を開始

平成26(2014)年 4月 東京国際空港内に航空交通気象センター首都圏班を設置し業務を開始

組織図



気象庁予報部予報課航空予報室航空交通気象センター  
〒811-0204 福岡県福岡市東区大字奈多字小瀬抜1302-17

TEL : 092-608-8191(代) FAX : 092-608-8193  
気象庁ホームページ : <http://www.jma.go.jp/>

2016.3



Air Traffic Meteorology Center

気象庁 航空交通気象センター



航空交通管理センター  
運用室全景  
(手前は気象席)

航空機の安全と効率的な運航を

気象情報で支援します



気象庁マスコットキャラクター  
「はれるん」

# 航空交通気象センター

## 航空交通管理のための気象情報の提供

航空交通の過密化によって、ひとつの空港の混雑や局地的な悪天候が、全国の航空交通の流れに影響を及ぼす場合があります。

このため、航空交通管理 (Air Traffic Management: ATM) の的確な実施には、主要空港と航空路の気象情報が重要な役割を果たします。

気象庁の航空交通気象センター (Air Traffic Meteorology Center: ATMetC) では、航空交通管理を支援する気象情報の提供を24時間体制で行っています。

# 気象情報を活用した 航空交通管理

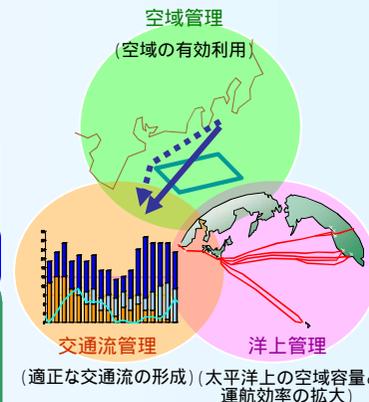


# 航空交通管理センター

## 全国の航空交通を一元的に管理

航空需要の増加により、航空交通量は大幅な増加を続けています。

これに対応するために、国土交通省航空交通管理センター (ATMセンター) では、下図のように3つの機能を連携させて、航空機の安全で効率的な運航を確保しています。



## 主要空港や航空路上の悪天を監視、予想



気象庁 航空交通気象センター



管理管制官へのブリーフィング (気象解説)

# 気象情報の提供

## 気象情報を活用した航空交通管理の実施



### 航空局

- 航空交通管理管制官
- 航空交通管理管制運航情報官
- 航空交通管理管制技術官



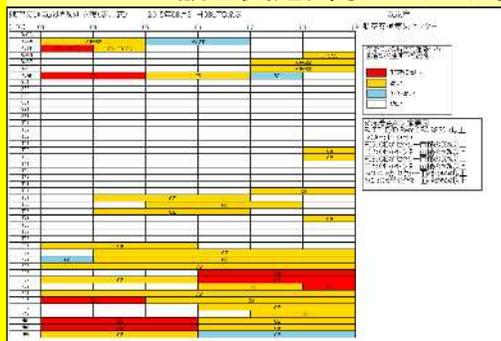
ミーティングによる情報共有



### 防衛省 連絡幹部

## 航空交通管理センター運用室

## 航空交通気象センターが作成する気象解説資料の例



航空交通気象時系列予想

気象によって航空交通への影響が発生する可能性を、場所と時間別に表した図 (可能性の高さは、高い順に赤 > 黄 > 青 > 白)



運用室内の大画面に気象資料を表示

管理管制官は、ATMetCが随時提供する雷、強風、雪などの航空交通に影響を及ぼす可能性のある悪天等の詳細な気象情報を考慮して、航空交通流制御などを実施する航空交通管理を行っています。それらの情報は、ATMセンターや管制機関及び航空会社にTV電話会議などによって共有されています。

関係各国機関と  
国際的な協力

航空会社との  
協調

## 協調的意思決定

(CDM: Collaborative Decision Making)

航空交通管理を円滑に行うためには、運航関係者全体が必要な情報を共有した上で連携を図りながら協調的に意思決定を行うことが重要です。

航空交通管理センター運用室では航空局、気象庁、防衛省の職員がひとつの運用室で連携して業務を行っています。

また、関係各国機関や航空会社とも情報を共有した上で協力、協調して航空機の安全で効率的な運航を確保します。